



築上町社会福祉協議会

No.71

2020(令和2年).5.1

社協だより

食の自立支援 受託事業

高齢者のお宅へお弁当を年間
362日配達しています。



この機関紙は、赤い羽根共同募金の配分金の一部で作成しました。

令和2年度（2020年度）築上町社会福祉協議会事業計画・予算

基本方針

昨今、社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、数年前に社会問題として取り上げられた団塊世代が後期高齢者になり、超高齢社会を迎える2025年問題は目前となった今日、さらには団塊世代を支えている中間層世代が高齢者となる2040年問題が背後に現れています。このような超高齢社会を迎え、少子化による世帯構成の変化によって従来の公的制度や医療制度、社会保障での対応では困難なケースが現実味を帯びており、地域には高齢者だけではなく様々な課題が増え続けています。しかし、地域社会においては昔のような「隣組」という相互扶助の精神が希薄し、地域の住民同士が疎遠となり、制度やサービスによって地域の支えあいが失われつつあるのが現状です。

そこで、築上町社会福祉協議会では「地域共生社会」の実現に向け、地域生活体制整備事業において、これまで培ってきた地域活動、人的資源、事業を最大限活かし、社協の事業・活動の方向性等を組織的に協議・確認し、潜在化している福祉課題や制度の狭間の問題等、社会包摂的な支援体制の整備、住民主体による地域支えあいの体制づくり、研修会等を通じて、地域のつながりの再構築を行い、課題解決に向けて関係機関との連携・協働の拡充に向け、地域に根差し、地域住民とともに築上町の社会福祉を協議する組織として築上町社会福祉協議会の事業を展開していきます。

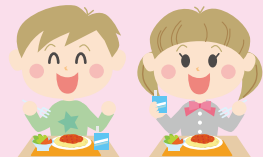
重点的に取り組む事業

個別課題への対応の強化

- ・地域社会において孤立した方や課題を抱える人（生活困窮、引きこもりなど）への個別相談・支援
- ・個別困難事例への支援体制と他機関・多職種及び社会福祉法人の持つ専門職との連携
- ・既存のサービスや制度にはない新たな支援サービスの創出
- ・子ども食堂を通じて多世代・地域との関わりをつくり、若年親子世帯の地域孤立の解消

地域福祉における総合相談、地域支えあいの仕組みづくりの推進

- ・地域課題及び地域支援としての総合相談の体制づくり（関係機関との連携強化）
- ・地縁活動や地域資源の発掘を行い、地域づくりの見える化を推進（地域の広報誌作成）
- ・若年・中年層向けに地域活動参画のための養成研修の開催
- ・防災研修等を通じて地域の福祉力の強化（見守り活動や自主防災機能の支援）
- ・災害時における支援体制構築及び災害支援ボランティア登録の導入
- ・社会福祉法人連絡会による地域における公益的な活動の推進



令和2年度（2020年度）築上町社会福祉協議会予算

単位：千円

| 区分 | 勘定科目大分類 | 金額 | 備考 |
|-------------|---------|-------------------|--|
| 事業活動による収支 | 収入の部 | 会費収入 | 2,855 2020年度の会費収入。 |
| | | 寄附金収入 | 2,651 一般寄付、香典返し。 |
| | | 経常経費補助金収入 | 56,451 社会福祉事業に対する補助金及び県共同募金会からの配分金収入等。 |
| | | 受託金収入 | 155,779 児童館、築城・椎田センター管理料及び在宅サービス委託料等。 |
| | | 事業収入 | 17,829 食の自立支援事業、築城・椎田センター入浴料等。 |
| | | 受取利息配当金収入 | 2 預金利息。 |
| | | その他の収入 | 190 自動販売機手数料、常設バザーの収入等。 |
| | | 収入合計 | 235,757 |
| | 支出の部 | 人件費及び事務費支出 | 134,506 職員人件費及び事務的経費。 |
| | | 事業費支出 | 95,366 町受託事業、地域福祉事業（子ども食堂含む）の事業経費。 |
| | | 助成金支出 | 1,888 各種団体助成金等。 |
| | | 支出合計 | 231,760 |
| | | 資金収支差額 | 3,997 |
| 施設整備による収支 | 収入 | 施設整備等収入計 | 0 |
| | | ファイナンス・リース債務の返済支出 | 1,483 |
| | 支出 | 施設整備等支出計 | 1,483 |
| | | 施設整備等資金収支差額 | △1,483 |
| その他の活動による収支 | 収入 | その他の活動収入計 | 0 |
| | | その他の活動による支出 | 3,140 |
| | 支出 | その他の活動支出計 | 3,140 |
| | | その他の活動資金収支差額 | △3,140 |

社協とは…

社会福祉法第109条に規定された地域福祉を推進する民間団体です。

具体的な事業として、配食サービスをはじめ、車いすの貸し出し、高齢者等の見守りネットワーク事業、ボランティア活動の支援、児童青少年福祉、母子父子福祉等さまざまな分野での事業を行っており、地域の皆様や民生委員・児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育などの関係機関の参加・協力のもと地域福祉の増進に取り組んでいます。



築上町社会福祉法人連絡会より ガイドブックを発行しました

令和元年 11 月 13 日に築上町社会福祉法人連絡会を発会しました。

町内の高齢者施設、障がい者施設、保育園などを運営している社会福祉法人 11 団体です。

築上町社会福祉法人連絡会の最初の活動として、社会福祉法人を皆さまに知っていただきたく、「きっちり、築上町 福祉のガイドブック」を作成しました。築上町社会福祉法人連絡会に加入している法人の各施設紹介や活動等を掲載しています。

ガイドブックにはQRコードがついているページもあり、紙面では伝えられない、施設の雰囲気や働く人の姿を動画で見ることができます。

このガイドブックで築上町にある社会福祉法人のことを知っていただければと思います。

ふるさと回想

東北大学 情報科学研究科
教授 篠原 歩
(宮城県仙台市在住)

ブルーインパルスの白煙

仙台に引っ越して14年目にあたる昨年の夏、電車で一時間弱の松島基地でブルーインパルスのアクロバット飛行を見上げていると、妻と私の故郷である築城の航空祭の記憶が甦ってきました。剣道を習うために小4から中3まで月・水・金と通い慣れた基地内ですが、航空祭ならではの思い出もたくさんあります。隊員食堂のカレーライス。瓶入りのコーラやファンタ、スプライト。閉店間際まで粘ると大安売りになる屋台の水飴やタコ焼き。そしてなぜだかインベーダーゲーム。部活に明け暮れていた高校時代は休日も練習で航空祭の記憶は途切れますが、九州大学で働いていた頃は何度か同僚や学生さんたちを誘って早朝6時に博多を出発し、実家に車を駐めて基地まで歩いて行きました。航空祭初体験の人々に地元民ならではの見所や隠れスポットを紹介し、曲技飛行の終了後は渋滞が解消するまで実家に寄って、我が町の自慢の唐揚げと自家製の糠漬けでおもてなし。そんな思い出を懐かしみながらブルーインパルスの冊子を見ると、パイロット紹介欄に豊津高校の文字が。面識はなくても、同郷の方々の活躍は何よりの励みです。東京オリンピックの翌年に生まれた私は開会式の五輪スモークを紹介ビデオや大河ドラマ「いだてん」の中でしか観ていませんが、東京オリンピック。開会式が楽しみです。

寄付金のお礼

築上町社会福祉協議会に次の方々よりご寄付をいただきました。ご芳情に対して厚く御礼申し上げます。

この浄財は、社会福祉事業を推進するために、大切に使用させていただきます。

なお、社会福祉協議会へご寄付された場合は、所得税の控除対象となります。

(令和2年2月21日～令和2年4月22日受付分まで掲載)

香典返し

◆椎田地区

(湊南) 坂本 有巨様 (亡妻 静子様)

(湊北) 豊田 達三様 (亡兄 正秀様)

(椎田中) 米田 崇様 (亡母 タマエ様)

(椎田南) 外種子田 マツ子様 (亡夫 守様)

(西高塚) 田中 静枝様 (亡夫 秀夫様)

(東高塚) 福村 弘子様 (亡夫 捷様)

(宇留津) 吉田 島 暢様 (亡妻 ハルエ様)

(東八田) 植田 数馬様 (亡母 ミツヨ様)

(奈古) 長谷川 千鶴子様 (亡夫 喜一郎様)

(越路) 碓井 環様 (亡夫 栄市様)

(坂本) 畦津 多恵子様 (亡夫 幸徳様)

◆築城地区

(寒田) 中 畑 省城様 (亡母 アサコ様)

(安武第四) 安田 美鈴様 (亡父 友吉様)

(上築城) 鈴木 木 かつお様 (亡母 有元タカ子様)

(中築城) 中 野 隆信様 (亡母 富士恵様)

(下築城) 織田 尚徳様 (亡妻 靖子様)

(東築城) 福田 雅代様 (亡父 隆志様)

(上別府) 森 君 子様 (亡母 フミエ様)

◆町外

(行橋市) 永尾 道夫様 (亡母 操様)

(埼玉県) 中尾 康之様 (亡義父 角本 正志様)

一般寄付
實成寺寒修行団様

ちくじょう子ども食堂へ食材等のご寄付をいただきました

(令和2年2月21日～4月22日受付分まで掲載)

- ・ 富永 幸人 様 ・ 上田 一二三 様 ・ ワークランドこすもす 様 ・ 築上町ボランティア連絡協議会 様
- ・ 築上町母子寡婦福祉会 様



知らんやった！ 地域は宝の山や ～～ん



4月から社協の本所で生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)として勤務するようになりました山口礼子です。

誰もが住み慣れた地域で、つながりと生きがいをもって暮らすために、地域の活動や集まりに参加させていただき、皆さんの声を聞かせていただきます。地域の皆でやってみたいことなどを支援し、身近にある「支え合い」(散歩中やバス停でのおしゃべり、集まりやすい家でのお茶飲み、料理・お漬物・野菜のおすそ分け、公園をきれいにする、健康体操)などの地域の営みを見つけてつないでいくと、支え合いのネットワークができて生活を支援する仕組みができます。

しかし新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3密(密集・密室・密接)対策で健康サロンや自治会の集まりも中止となり、人との接触を避けるべく思うように動けません。

そんな中、3密に関係がないと思われる、上小山田地区のラジオ体操に参加させてもらいました。60代後半より70代の方々が鳥のさえずりを聴きながら体操する場所まで歩いていき、朝の6時半から15分位行くと「体調もよくなり生活リズムが整う」「誰かが1週間程休んだら心配で訪問している」「無理なく行っているの継続できている」と笑顔で答えてくれました。

皆さんの情報をいただき地域を伺いますのでどうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

広報部会
井上 孝之助

5月号のお届けです。5月は風が薫り、目に鮮やかな新緑の季節です。気温が安定し、快晴の日も多く、ゴルフデンウィークもあって、絶好の行楽シーズンです。誰もが、大いに外に出て体を動かしたくなります。ところで今年は、新型コロナウィルスの流行で、世界中が混乱の状況にあります。正体が未だ見えぬウィルスと人類の戦いの様相を呈しています。ワクチンや治療薬のない現状では、長期戦を覚悟せねばならないようです。人から人への感染拡大防止のために、一人ひとりの行動規制が求められています。7月開催予定だった東京オリンピックも、つい一年の延期が決定され、折角の五月行楽シーズンも台無しです。本日に、コロナ禍の早期終息を祈るばかりです。

さて、別欄でご紹介のように、町内の十一の福祉事業所が連絡協議会を結成しました。町内の福祉事業が一層ネット化されて、向上することが期待されます。